

誰に、何を、どのように

3月にオミクロン株が収束した後、夏季に感染拡大がないとすれば、それは収束へと向かうという判断ができそうです。

ファイザー製の飲み薬も承認されたこと、感染しても軽症であること、ワクチンのブースター接種も進んでいること、治療薬も整い始めたことなど、そろそろ終わりが見え始めたといえそうです。

そうなれば営業の立て直しに全力で向き合えることになります。

パチスロは、6月から8月にかけて6.5号機がリリースされる予定です。

半導体や電子部品などの不足もありますが、仮に順調に供給された場合、長く不調が続いていたパチスロの回復が期待されます。

しかしその回復の道筋は急激なものではなく、1年間ほどの時間を有する可能性があります。

すべてのお客様が差枚方式を支持するわけではないので、基本である誰に、何を、どのようにをしっかりと見据えて行うことが大切です。

Aタイプといえばジャグラーになりますが、ただ設置すれば稼働がつくというほど、出枚数が減った6号機への移行が安易だとはいえません。

ただし、十分な供給ができていない現状は、かえって稼働が集中するために、結果的に良しとでる可能性はあります。

市場からいったん減ったパチスロが、もとの台数にまで戻るには、時間と共に努力が必要だと言えます。

その意味では2022年の営業は厳しいものになるだろうと予想されますが、先行きの見えない流れではなく、明るさの見える流れであることは、希望といえるかも知れません。

4円パチンコの好調は、低貸しと海の不調によって目立ちますが、今年度はさらなるヒット機種が出て来るとも予想されています。

いずれにしても夜明け前、闇の一番深い時期です。

1月31日を前にして閉店・廃業・休業のニュースが毎日入って来ます。

今年を乗り越えれば、明るさが増して来ることを信じて、営業の努力を重ねて行きましょう。

この苦境もあと少しです。